

「70年前の8月15日」

3年 Y.O

みなさんは「平和」について考えたことがありますか？「平和」という言葉を辞書で引いてみると安らかに和らぐこと、穏やかで変わりのないこと、戦争がなくて世が安穏であること、と書いてあります。

今、私は穏やかで毎日変わりなく、健康で楽しく平和に暮らしています。家族とケンカをしたり、多少のいらだちを覚えることはありますが、戦争という大きな犠牲を伴う争いのないこの日本に生まれて本当に幸せに思います。とは言っても日本も昔は大きな戦争をして、何百万人というたくさんの人の命がなくなりました。私は、戦争を経験したことはなく、遠い昔のことだと思っていました。本やテレビを見たり、祖父に当時の話を聞いたことはありましたが、その時は深く考えず、ただの体験談にすぎないと思っていました。しかし、2015年8月15日「終戦の日」に戦争についてのドキュメンタリー番組を見て、戦争のことを深く知り、改めて戦争は二度とやってはいけないと感じました。

番組の中で、「8月15日は何の日ですか？」という質問を10代～20代の戦争を知らない世代の人たちに問いかけている部分がありました。若い人たちは「8月15日って何かありましたか？」や「お盆」「海の日」「普通の平日」などという答えで、私はそれを聞いてこんなにも「終戦の日」を知らない人がいるのだと知り正直驚きました。

終戦時に10歳以上だった、戦争の記憶がある世代の人口は、この15年でほぼ半減しています。これらの世代が減少し、対照的に戦争を知らない世代が増加、もはや親、子、孫の3世代に渡って戦争を知らない家庭も少なくありません。

この番組を見て思ったことは、戦争は人間を人間ではなくしてしまうのだと思いました。取材された体験者の方々はその当時の気持ちなどを語っていましたが、人を殺したりすることにためらいはなく、国のためという思いで戦い、自分はいつか死ぬという考えで、死んでいくことが当たり前だったのだと思いました。実際の戦争の映像も放映されていましたが、血だらけで死んでいくたくさんの人々、一面の焼け野原。あまりにも無惨な光景に胸の詰まる思いでした。命の価値観や重みが今とはかなり違うことに気付きました。周りで家族や友達などが次々と死んでしまうという状況は、想像しようとしても私には出来ません。自分がいつ死ぬかわからないという気持ちで毎日を過ごすというのは、まさに地獄だと思います。

私の祖父は5歳のときに戦争を経験していました。祖父に戦争のことについて話を聞きました。祖父は家族と一緒に逃げている時に、5メートルほど後ろで祖父の親戚が爆弾に撃たれて亡くなったそうです。もしも、その爆弾が祖父に当たっていたら、私の父もいませんし、私も今ここにいません。そう思うと私が今ここにいることは奇跡だと改めて感じました。

今回、「戦争」や「平和」について考えてみて、「戦争」と「平和」は真逆に近い言葉ですが、「戦争」があつて今の「平和」な日本があると感じ、自分が今、この世の中に生きて

いることがとても恵まれているのだと思いました。70年前に起きた戦争を語る人は徐々に減ってきています。いつしか戦争も忘れられてしまう可能性も少なくはないと思います。私は二度と戦争を起こしてはいけないと改めて感じたので、平和の大切さを次の世代に伝えていきたいと思いました。これからの日本は私達のような若い世代によって良い方向にも悪い方向にも変えることが出来ると思うので、平和な未来のために責任を持って行動していきたいです。